



今月のことば 令和8年(2026)4月 <No.236>

## 小さなプライド



NHKで大河ドラマ『龍馬伝』のチーフ・プロデューサーを務めた鈴木 圭さんという方がいます。『龍馬伝』の後、50歳でNHKを退職。周囲への挨拶状には龍馬にならって「脱藩」と記しました。

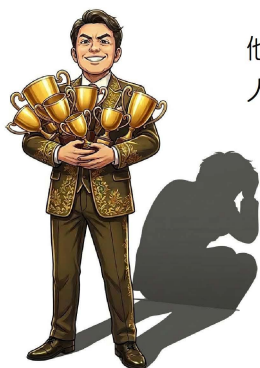
ところが「脱藩」の先に待っていたのは、晴れやかな自由ではありませんでした。何をしても満たされず、食事は無味になり、やがて眠れなくなります。肩書きを失い、組織から離れた途端、自分が「何者でもない」ことに耐えられなくなったのです。そして改めて目指したのは、医師国家試験でした。

「肩書きがないってこんなに辛いんだな、と。」(医師をめざしたのは)「**プライド**ってというか心が満たされる仕事だという風を感じた。」**「俺は人に褒められたいんだ、人に尊敬されたいんだ、と。」**「ちっちゃいですがね。でも、そのクソ小ささも私ですけど…。」

YouTube ReHacQチャンネル『なぜ会社やめたんですか？ 龍馬伝プロデューサー鈴木圭』より

コメント欄では、多くの方が鈴木さんの言葉に共感していました。それは、自分の中にある「ずるさ」や「小ささ」を、隠さず話されていたからでしょう。

人は皆、どこかで「立派な自分」「正しい自分」をよそおって生きています。他ならぬ、私自身がそうです。けれど本当は、褒められたいし認められたい。人と比べて落ち込むし、見栄も張る。それが人間の偽らざる姿です。



親鸞聖人は『愚禿鈔』という書物の冒頭で、次のように告白されています。

賢者の信は、内側は賢で、外には愚かな姿をしているが、愚かな私の心は、内側が愚で、外は賢をよそおっている。

こうして正直に言えたのは、愚者でも捨てずに抱きとめる「**大きなはたらき(阿弥陀如来の本願)**」に、聖人が出遇われていたからでした。

有名な『歎異抄』の一節、「善人をおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」という言葉も、少し解釈を加えて現代語にすれば、「**善人(自分の力で善くなれると思っている人)でさえ救われるのだから、まして悪人(自分の小ささから逃れられないと知っている人)はなおさら救われる。**」とも訳せます。

小さなプライドや打算を抱えながら、「それでも何とかしたい」ともがいている私たちに、「プライドも打算も抱えたままでいい。そんなあなたのために、阿弥陀さまの願いはすでに届けられているのだ」と告げてくださるのです。



慧日山 真光寺